

来週の市場とレート予想

	6/27(月)	6/28(火)	6/29(水)	6/30(木)	7/1(金)
無担保O/N			△0.086%	~ 0.000%	
銀行券	△100	トシ	△1,000	△1,000	△1,000
財政他	△18,300	+1,000	トシ	+1,000	△2,000
資金需給	不18,400	余1,000	不1,000	トシ	不3,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(20年)				
オペ期日	共通担保(全店) △2,100 CP等買入 △800 国債補完供給 +600	共通担保(全店) △6,600			共通担保(全店) △200
オペスタート	共通担保(全店) +4,100	共通担保(全店) +100 短国買入 +15,000 国債買入 +11,500			
(日本)			商業動態統計(5月)	鉱工業生産指数(5月)	消費者物価指数(全国5月、東京都区部6月) 完全失業率(5月) 家計調査(5月) 有効求人倍率(5月) 日銀短観(6月) 消費動向調査(6月) エネルギーと生鮮食品除く 消費者物価指数
(海外)	欧 ユーロ圏マネーサプライ(5月)	米 GDP(1-3月、確定値) 米 S&P/ケース・シラー 住宅価格指数(4月) 米 消費者信頼感指数(6月) 欧 EU首脳会議(29日まで) 英 英中銀、臨時オペ	米 個人消費支出・所得(5月) 米 中古住宅販売成約指数(5月) 米 FRB、包括的資本分析の結果発表 欧 ユーロ圏景況感指数(6月)	米 新規失業保険申請件数(25日終了週) 欧 ユーロ圏消費者物価指数(6月、速報値) 英 GDP(1-3月、確定値)	米 ISM製造業景況指数(6月) 米 建設支出(5月) 欧 ユーロ圏失業率(5月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.06 ~ 0.000
SPOT 2M	△0.06 ~ 0.000
SPOT 3M	△0.06 ~ 0.000
SPOT 6M	△0.06 ~ 0.000

<インターバンク>

当座預金残高は週初、国債の大量償還、貸出増加支援オペを主因に先週末比5兆7,900億円増加し、300兆7,000億円から始まり、初の300兆円台となった。その後は短国・国債買入を主因に増加し、週末は302兆8,000億円を越週した。無担保コールON物は概ね△0.085~△0.03%台で取引され、同加重平均金利は△0.062~△0.057%とマイナス圏で安定的に推移した。ターム物は、△0.02~△0.04%近辺の出合が散発的にみられた。期末越えとなる期間においても出合いのレンジに変化はなかった。23日に実施された英国のEU残留・離脱を問う国民投票の結果は離脱派が51.9%となり、英国のEU離脱が決定的になった。24日、東京市場では開票状況をにらみ、金融各市場は値動きの激しい展開となった。円は急騰し約2年7か月ぶりに一時1ドル99円台をつけた。10年の国債利回りは一時△0.215%を付け、過去最低を更新した。日経平均株価は後場に入ってから、EU離脱が現実視され、大きく値を切り下げる展開となり、引け値は前日比△1,286.33円の14,952.02円となった。来週の予定は、日銀短観、完全失業率、家計調査(1日)、海外では、EU首脳会議(28・29日)、などが挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.300 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約5,700億円で、期落ち額約7,100億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。四半期末の有利子負債削減により、継続発行を見送る動きが見られた。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。現先レートの中心は、-0.100%~0.000%程度で推移した。

<TDB>

23日に国庫短期証券3M第616回債の入札が行われたが、最高落札レートはそれぞれ△0.2224%(前回債△0.2517%)、平均落札レートは△0.2441%(同△0.2636%)と前回債と比べて利回りは上昇した。セカンダリーは3Mで△0.265%近辺の地合いとなっている。6M、1Yは目立った出合は見られなかった。来週30日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは、週前半△0.05%前後の出合い。週中には国債買入れオペの影響もあり、△0.07%近辺まで低下したが、短国3Mの発行日となる27日受渡では再度△0.05%台まで上昇した。週末は海外要因もあり、offerとbidの目線が離れてスタート。△0.10%近辺の出合いが一部見られたが、最終的には△0.08%台のofferが残る展開となった。

SC取引では、10年342回債は先週に引き続きBIDが多く、O/N物で△0.60%近辺の出合いが多く見られた。他では5年125・126・127・128回債、10年330・336・341・343回債、20年155・156回債、30年49・50回債などに引き合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。